

道 徒 の 聖

航空



1960

2月号

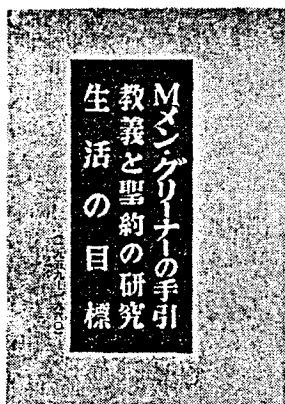
パン・ア
大西洋
その上
アメリ
エノス

詳細は

東京・
大阪・

末日聖徒イエス・キリスト教会

MIA MANUALS



MIA グリーナーの手引
教義と聖約の研究
生活の目標



役員の手引
1989-1990



我らは
奉仕する

自らを忘れて「神」と「同胞」に仕えることの重要性を説いた書、MIAの年少者用テキストではあるが年長者にも内容は極めて興味のあるもの。

一〇〇円

MIA 役員たちの必読の書、一年間の計画、特別なプログラムが掲載されている。

一〇〇円

人生には数々の目標があるが、すべての目標を総括する唯一の目標こそ「永遠の生命」である事が強調されている。

一〇〇円

書類整理の能率を高める

ファイルネット

(カタログ進皇)

伊藤喜商店

東京・大阪・名古屋・福岡・小倉

Stoki

と

ファイル用具

東京都中央区銀座1の3

Tel (56) 9371 ~ 5



聖 徒 の 道 1960年2月号

〔予言者のことば〕

求婚期間と結婚……………デビド・O・マッケイ…(34)

〔伝道部長メッセージ〕

わが家は秩序の家にして

混乱の家にあらず…ポール・C・アンドラス…(37)

大管長会から伝道部長への手紙……………(39)

ジョージ・アルバート・スミスの信条……………(36)

「モルモンの教義」

バラダイス……………佐藤竜猪…(40)

極東に於けるモルモン

私の改宗……………渡辺八重子…(43)

「結婚と家庭」……………渡部正雄…(45)

御言葉を聞くのみならず

これを行う者たれ…エルドレッド・G・スミス…(44)

＝求道者のための読物＝

モルモンとは(2)……………ゴルドン・B・シンクレー…(48)

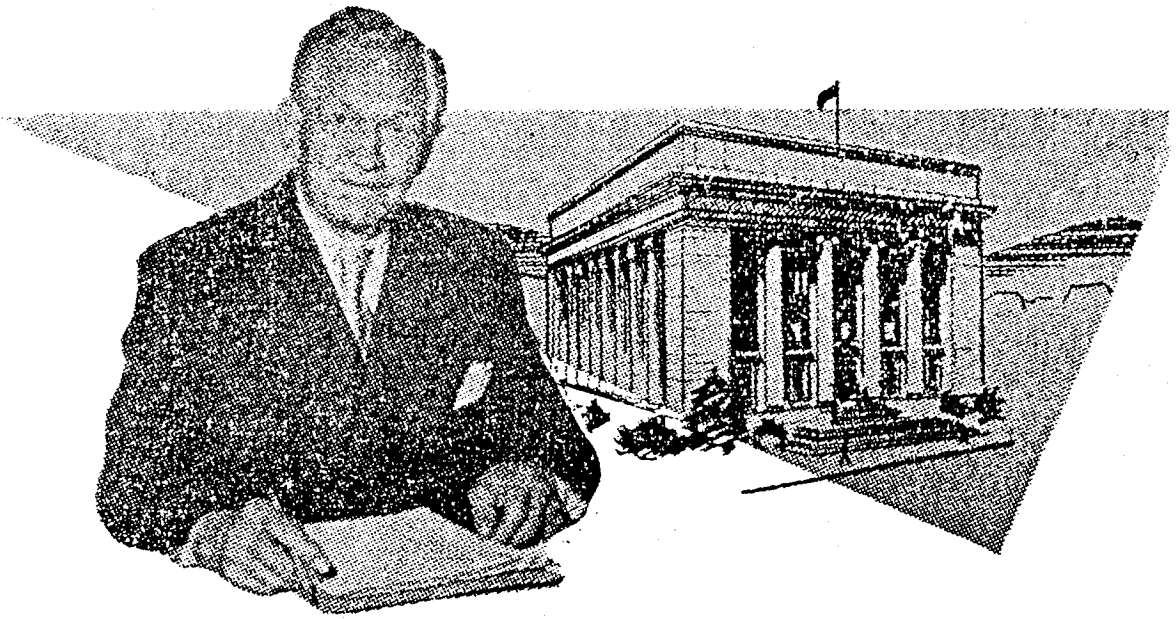
末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹

ジョセフ・フィールディング・スミス……………(59)

十二使徒……………デビド・O・マッケイ…(51)

伝道本部だより……………(63)

休憩室……………(46)



求婚期間と結婚

大管長 デビッド・O・マッケイ

結婚をする目的で相手の愛を求めている中にまた結婚をしている中に、人は自分の環境を非常に修正したり、また非常によく締りをつけたりすることが出来る。そこで、お互いが賢明に祈りの心をもって相手を選ぶということはきわめて大切なことではないか。結婚相手の選び方によって将来の幸不幸がきまるのである。従って、あなたが将来気の合った一生の伴侶とする人を選ぶ仲間とだけ交際をするのは智慧の一部分である。もしもこのような交際をしている中に、あなたの心を惹きつける人の中にマイナスとなるような性質を認めたなら、理性の判断があなたの感情を支配するように努めよ。結婚をすると、人は悪い癖や性格の中のマイナスになる特質をなくすることができると考えて自分をだましてはいけない、これらの悪い所がなくなること結婚する前に立証せよ。

人が得たいと思って探し求めるプラスになるような特性とは何か。数ある優れた特性の中でも、真の愛人は正直、忠実、貞操、尊敬等の美德を有たなければいけない。あなたをだまそうとする人、あなたにうそを言おうとする人とは決して結婚してはならない。本当に道しるべとなる原則は人の有っている性質の中で一番神聖なもの、すなわち真の愛である。

若い人々が天から与えられた熱情——私はこれを神が与えたもうた熱情

と言う——に駆りたてられてまっしぐらに進むとき、彼は正に人生に於けるその状態に入つたのである。世の中にはこの事実を認めて「これらの熱情を有っているから、これらを満足させることができないという法はない」と言う若い人たちがあつた。またこれらの若い人たちは近代の心理学者からそれは正しいと言われることもある。しかし、その言葉に誤らされてはならない。私はくり返して言う、あなたはちょうど自分の肉体の性質が現われる人生の時期にある、しかしながらその同じ時期に神は理性の力をあなたに与えたもうてゐることを忘れてはならない。また神はあなたに正しい思慮分別も与えたもうてゐるが、これらはみな神聖な目的のためである。この理性と正しい思慮をあなたの道しるべとし、あなたの「はかり」とせよ。

あなたは、力強い音を律動的に鳴り響かせて動力と熱とを出している発動機の側に立つたことがあるか。あなたはこの据えつけられた発動機に調速器を見出すにちがいない。もしも調速器がなかったなら、建造物の全体は爆破されてしまふであらう。しかし、発動機の回転が激しくなるほど調速器はますます働き、従つて全体がよく統制されるのである。そのように、あなたは自分の熱情の勢いを調えるものとして理性と正しい思慮分別とをもっている。これらの勢いを調えるものを失わないように努力しなさい、さもなければ自分の一生を破滅する爆発が起るかも知れない。

い。

結婚を、ロマンティックな気まぐれかまたは利己的な目的にこたえて随意に契約をし、困難や誤解が起るとすぐに別れることもできる単なる契約と見ることは、重い罪の宣告を受けるに足る一つの悪である。離婚のために子供たちが苦しみを受ける時には特に然りである。

幸福な結婚生活の種子は青年時代に蒔かれる。幸福は結婚の式場から始まるのではなくて、青年時代からまた結婚をする目的で相手の愛を求める時期から始まる。青年時代に於ける克己自制と両性間の道徳に関する唯一の基準に従ふこと、これこそ第一に男々しい男性となる源であり、第二に美しい女性の頭を飾る宝冠であり、第三に幸福な家庭の泉であり、第四に人類に力と永続とを与える要素である！

結婚を以て相手の愛を求める時期は終つたと解して結婚式場に臨む一組の人々が余りにも多いと私は心から信じてゐる。当教会の会員は皆、結婚式は永遠に相手の愛を求める時期の始まりであると解してもらいたい。また家庭生活の重荷を負っている中にも優しい賞め言葉とていねいな動作は、結婚する前に相手の愛を求めていた楽しい時代にもまさつて感謝をされることを忘れないようにしようではないか。

「有難う」「ごめんなさい」「どうぞ」というような言

葉が、あなたたちを結び合せた愛がいつまでもつづくように力を与えるのは結婚式を挙げてからと、家庭の中で厄介事が毎日起るときのことである。結婚式を挙げた後に幸福がつづくように力を与える三つの大きな理想をいつも心に留めていただきたい。それは第一に忠実である。若い夫よ、自分の優しい妻以外の若い女が示す好意に応ずべきではない。夫であるあなたは他人の妻の注意を引くことさえしてはならない。彼女の為すべきことはその夫と共に家庭をしっかりつくることである。あの重大な誓約に忠実なことを祭壇で誓ったではないか。

第二にそれは自制である。ささいな事にいらいらして早口で鋭い調子で肝高く物を言うとはかの人の心を傷つける。私は、人に物を言うときに自制をするという偉大な性質くらい家庭の幸福と平和とに与って力のある美德がないことを知っている。もしもあなたの心が傷つけられたり、または他人の中にあなたの感情を害するものを見るならば、直ちにあなたの心に浮ぶ鋭い調子の声を出さないようにしなさい。数分のうちにあなたは荒々しい言葉をかけなかったこと、かっとなった行いをしなかったことを嬉しく思うにちがいない。その結果は家庭の中に愛と平和があることである。

第三の理想は礼儀という小さな簡単な美德である。両親が子供たちに礼儀正しければ従って子供たちは両親に対し

て礼儀正しい。このようにして家庭の中には優雅上品の要素があるのである。忠実と自制と礼儀正しいこと。十五年、三十年、五十年しかして永遠にわたり、かつて結婚相手の愛を求めた時と全く同じようにお互いが礼儀正しくあれ。それで家庭は幸福になる。私は、家庭くらい幸福が確実に在る所を知らない。家庭を小さな天国にすることはできることである。全く私は天国を理想の家庭のつずきとして心に画いている。

ジョージ・アルバート・スミス大管長の信条

私は友なき人の友となり、貧しき者のとほしきをうるおすに悦びを見出そう。

私は苦しみにあえぐ病人を見舞い、癒されるといふ信仰を得たいとの願望をその心に吹き込もう。

私は全人類が真理を理解しその祝福に与るよう、真理を教えよう私は身を誤っている人を探し出し、その人達が義しい幸福な生活に立ち帰るよう、尽力しよう。

私は多くの人々と共に住み、その人達の人生が幸福なものとなるよう、その問題の解決に助力をしよう。

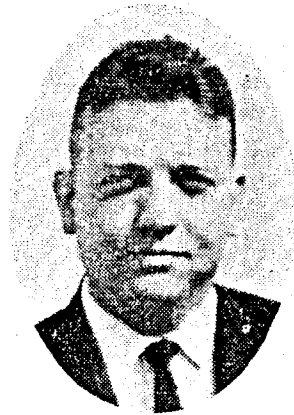
私は殊更、人前で高い地位について公言することをさけ、軽率な友のへつらいを思いとどまらせよう。

私はたとえ私を傷つけ害したことがある人であっても、知りつゝ何人の気持をも害わぬよう心掛け、万人に善をなし、万人を友とするよう努めよう。

私はやゝもすれば利己的になりまたしつと易い性癖を克服し、天の御父のすべての子供達の成功を悦ぼう。

わが家は秩序の家にして

混乱の家にあらず



ポール・C・アンドラス

「教義と聖約」の第百三十二章八節に「見よ、わが家は秩序の家にして混乱の家にあらず」という主の御言葉があります。この御言葉の本当の意味は始めて読んだ時に心に浮ぶよりもっと広いものであります。少し考えるならば、私たちは教会に關係のあるすべての事が秩序正しく整頓され、秩序正しく維持され、また秩序正しく実行されなくてはならぬことがよく解ります。肉体の面でも精神の面でも万事が秩序正しく行われなければなりません。

わが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は一人のこらず自分の身体を肉体の面に於ても精神の面に於てもきちんと整えておかなく

てはなりません。会員は一人一人必らずきちんとした身づくろいをしていなくてはなりません。度々入浴をし、頭の毛をこざっぱりと刈り込みくしけずり、齒をきれいに磨き、男子は毎日ひげを剃り、両手や指の爪はいつも清潔にしておかなくてはなりません。また下着は度々換え、靴下も度々取り換え、衣服は清潔でよくプレスしてあり、靴もきれいでよく磨いてなくてはなりません。良い末日聖徒は細かい所まで心を配って身づくろいをします。もしも自分の身体が清潔で身づくろいが良かったなら、自身の精神的方面もきちんと整えることが一層容易であるのをよく知っているからであります。私たちが清潔であり良く身づくろいをしている時には一層たやすく神に近づきますから、祈ることが一層容易であります。私たちは一層容易に隣人を愛し、一層容易に愉快になり一層容易に自身の感情

を抑制し、一層容易に集会に出席していろいろな活動に加わり、一層容易に教え一層容易に学びます。身体の衛生と人の正しい行いとの間には密接な関係があることがこれではつきりとわかります。

わが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は一人のこらず自身の所有物と住居とを整頓し、次にこれらをいつも秩序正しく保たなくてはなりません。押入れ引出し食器棚冷蔵庫などは始終清潔にしてきちんと片付けておかなくてはなりません。何でもあるべき所に置いてきちんと片づけよとは守るべき良い規則であります。家族の中の母親は家庭の女王でありますから、一般に家庭内の事を秩序正しく保つ責任を持っています。しかし、家族の頭首は夫であって正しい秩序が維持されることを心がける第一の責任があります。自己の所有物をいつもきちんと片づけ、また子供たちがその所有物をきちんと片づけるように妻と協力をして訓練を施すのは夫の責任であります。末日聖徒は、神の「みたま」が良く整頓された家庭に一層容易に宿りたもうことを知って居りますから、家庭の中に秩序を維持することの価値がよく解っています。家が大きくても小さくても常に清潔に保ち良く整頓しておかなくてはなりません。清潔で良く整頓されてある家にはその中に神の「みたま」が一層容易に宿りたもうからであります。ここで私は、末日聖徒の一人のこらずはまた仕事をしているときに自分の責任範囲にある事をいつも必らず良く整頓しておかなくてはならないと言いたい。ここに於てまた、何でもあるべき所に置いてきちんと片づけなくてはなりません。

わが教会の会員は皆力を協せて支部の建物或いは集会場をいつも清潔にし整頓しておく責任があります。集会場を始め支部の所有物がことごとく清潔であり整頓されて居りまたよく修理されている

ことに気をつける第一の責任は直接支部長にかかっていますが、会員も皆これらをいつも清潔にし整頓しておくために支部長の指図を受けて喜んで協力をすべきであります。支部がもっている建物はどれもみな内外共にきずなく満足な状態に保たれていなくてはなりません。すべての部屋は何時行ってみても清潔で良く整理してなくてはなりません。床はごしごし洗ってからワックスを塗り、窓は度々洗い、カーテンは定期的に洗ってきれいにしなくてはなりません。各建物の外側はいつも立派に維持されて居り塗料が施してなくてはなりません。聖餐式用の盆は毎週使用の前後にすっかり清めなくてはなりません。聖餐式に用いる布類も使った毎に洗濯をしアイロンをかけておかなくてはなりません。書籍その他支部に備えつけの品物は、使わない時はきちんと片つけてなくてはなりません。支部長は自分の事務室がいつ行ってみても清潔でよく片づいているように心がけて良い模範を示すべきであります。もう一度言いますが、何でもあるべき所に置いてきちんと片づけよとは守るべき良い規則であります。どんな種類の集会施設を今使っているとしても、これらが清潔であるように気をつけるのは、またこれが秩序正しく整頓されてあるように気をつけるのは私たち末日聖徒の義務であります。またそれらが教会の所有であるなら立派に修理され、塗料を施され、装備されまたできるだけ人目につくようにされているよう心がけるのはわれわれ末日聖徒の義務であります。

末日聖徒として私たちはいつも自分の身体、自分の財産、自分の家庭、自分の仕事また私たちの教会堂をきちんと秩序正しく保つことができますように。もしも私たちが肉体の面を秩序正しく保ちますならば、精神の面に増し加えられて恵みを受けるにちがいありません。「わが家は秩序の家にして混乱の家にあらず」。

大管長会より伝道部長への手紙

アンドラス伝道部長殿

ここに新年を迎えるに当り、昨年中に貴方が北部極東伝道部長として当教会の大切な宣教師の奉仕事業に貢献された役割に対し、深甚なる感謝を呈することを喜ばしく思うのであります。而して我々はこの感謝の想いをすべての宣教師の一人ひとりと、まことに貴伝道部の全会員一人一人に届けて戴きたいとねがうものであります。我々は主が最も優れた数々の祝福を貴方がたに与えたまわんことを祈り奉ります。

貴伝道部の宣教師方にそれぞれの家族そのほか伝道部に在って彼らの生活を援ける人々に我々の挨拶を伝えるようお勧め下さるならば辱けなく思います。自己の息子や娘や財産を教会に捧げて宣教師計画を支えている方々は、この偉大なる事業の中で最も重要な部分であります。

年末年頭の休暇中、我々は或るワード部から伝

道地へ出て行っている娘たちの一人がその同僚たちと共に彼女の伝道の働きを首尾よく勤めるようそのワード部の人々が全部断食をして祈ったことを聞き及びました。

我々は貴方が北部極東伝道部の働きを指導するとき成功を収め幸福であるよう絶えず祈って居ります。貴方がいつも健康と力に充ちて居りますように。我々は貴方の下にあつて働く多くの宣教師のためにする貴方のあらゆる努力と、貴方が管理している多くの聖徒たちのためにする貴方のあらゆる努力とは天父なる神によつて祝福され聖くされるにちがいないことを知つて居ります。天父の聖い「みたま」が貴方を支持しささえたもうにちがいありませんから、あらゆる逆境にうちかつよう必らず力が貴方に与えられます。

我々は主のために奉仕する働きをするに當つて貴方と共に働く働き手として、我々の愛情と挨拶の言葉とを一同共に貴方に呈する次第であります

デビッド・O・マッケイ
J・ルーベン・クラーク・ジュニア
ヘンリー・D・モイル

「パラダイス」(九)

佐藤 龍 猪

イエス言いたもう「われ誠に汝に告ぐ、今日汝はわれと共にパラダイスにあるべし」

(ルカ伝二十三章四十三節)

一、死と復活との間

「人々が一人のこらず死からよみがえる時の定まっていること」は確かである。「さて死ぬ時とよみがえる時との間の時もあるにちがいない。それであるから、私は死んだ時から復活と定まっている時になる間、人の霊がどのようなかと言うことをたずねよう」。「神には時の計算がなくすべて一日と同じである。時を計るのはただ人のためだけである。とにかくにも、人が死からよみがえる時は定まっている。そして死んだ時から復活をする時までには間がある。この間に人の霊はどうなるか」(アルマ書四十章五―九節)。

イエス・キリストが十字架につけられたもうた時に二人の強盗も一しょにはりつけの刑に処せられたが、そのうちの一人はイエスに向って悪口を言いつづけた。しかし、もう一人はそれをたしなめた末に言った「イエスよ、御国に入りたもう時われをおぼえたまえ」と。するとイエスはこれに答えて言いたもうた「われ誠に汝に告ぐ、今日汝はわれと共にパラダイスにあるべし」(ルカ伝二十三章三十二―四十三)。

その言葉の通りに、イエスの霊はその強盗の霊を伴って死者の霊がいる霊界へ行き、たもうたにちがいない。十字架の刑を受けてから、三日目に、復活体となって居りたもうたイエスは、朝早くまだ暗いうちに墓

へ来たマグダラのマリヤに向って「われにさわるな。われいまだ父のもとに昇らぬ故なり」と仰せになった(ヨハネ伝二十〇十七)。

これによって、十字架受難の直後の三日間、その体が墓所の中に横たえられていた間、イエスの霊は天国に昇って父なる神のみ許へ行きたもうたのではないというイエス御自身の確かな言葉聞くのである。従って、イエスはパラダイスへ行きたもうたが永遠の父なる神の住みたもう天国へは行きにならないかつたということが解る。パラダイスとは父なる神の住みたもう天国ではなくて、肉体を離れた霊たちの居るところである(「基督イエス」(英文)六七一頁、ジョセフ・フィールディング・スミス長老著「完成への道」(英文)三一五頁)。

「あらゆる人の霊はそれが善であつても悪であつても、この死ななくてはならぬ肉体を離れるとその霊に生命を与えたもうた神が備えたもうところへ帰るのである」(アルマ書四十〇十一)、「死に由つて肉体を離れた霊は、死んだ時から復活の時に至るまでその御備えの場所すなわちパラダイスに居り、死ぬべき身であつた間に各々の為した行いに応じて「幸福と安息」または「苦痛と不安」という境涯

を受けている（「信仰箇条の研究」七二〇頁）。

二、靈界の「ひとや」

イエスの靈は肉体から離れた三日の間何をしておいたもうたか。使徒ペテロはこのことに就いて証詞をする十分な資格がある者と認められる。彼は「キリストも汝らを神に近づかせんとて正しきもの、正しからぬ者に代りて一たび罪のために死にたまえり。彼は肉体にて殺され、靈にて生かされたまえるなり。また靈にて行き「ひとや」に在る靈に宣べ伝えたまえり」と言った。（ペテロ前書三〇十八・十九）。

ここにイエスの靈が肉体から離れて居たもうた三日間においてになったことの説明がある。イエスは「靈にて行き「ひとや」に在る靈に宣べ伝え」て居りたもうた。同時にかの強盜の靈の行つた所も明らかであつて、それは靈たちの居る世界であり（ジョセフ・フイルディング・スミス長老著「救いの教義」第二卷二三〇頁）、一種の「鋼こさされた世」すなわち「ひとや」であつた（ジョン・モルガン長老著「救いの計画」（英文）十九頁）。そこで彼はキ

リストの有難い御教えを聞いて福音を受け入れ救われることができるのであつた。

この靈界の「ひとや」に居た靈たちは「昔ノアの時代に箱舟の備えらるる間寛容をもて神の待ちたまえる時従わざりし者ども」であつた（ペテロ前書三〇二十）。これらは神の予言者の言葉に従わなかつたため大洪水のため亡ぼされてから救い主が十字架の刑を受けたもうまで靈界の「ひとや」に在つて「苦痛と不安」を受けていたが、キリストが「靈にて」来りたもうことによつて福音を受け入れる機会を与えられるようになった。これによつて、予言者イザヤがイエス・キリストに就いて「われ縛められたる者に由でよと言ひ」（イザヤ四十九〇九）、「心の傷める者をいやし、囚れ人にゆるしを告げ、縛められたる者に解き放ちを告げん」（イザヤ六十一〇一）、「盲の目を開き、囚れ人を「ひとや」より出し、暗きに住める者を檻の内より出さしめん」（イザヤ四十二〇七）と言つたわけが明瞭に解る。イエス・キリストの福音を受け入れず真理に逆らう者の靈は古代と現代との差別なく誰でも皆靈界の「ひとや」に置かれ、死ぬべき身を持っていた間に為し

た行いに対して残りなく償いをするまで居なくてはならない（「救いの教義」第二卷二二九頁）。

三、義しい人は「幸福と安息」の境涯

「さて死んでからよみがえる時までの靈の有様はどうであるか……その時義しい人の靈はパラダイスとなえる幸福な有様、すなわち安息と平和な有様に入り一切のわずらいと憂いと悲しみとを離れて息む」（アルマ書四十〇十一・十二）。すなわち神の誠命を守つた義しい人たちの靈は、福音を受け入れる機会があつたのにこれを無視して神に事える特権を放棄しそれがために「ひとや」に置かれた人々の靈と異り、パラダイスに在つて幸福な境涯を受けている。

人間が死ぬとその靈はすべて靈界へ帰る。そこではバプテスマを受けて忠実に神の誠命を守つた義しい人々の靈の居る所と、そのほかの人々の靈の居る所とは別々になつていて（ジョセフ・F・スミス大管長著「福音の教義」第七版四七三頁）その間には深い淵が横わつて居り両者はこれを渡つて交通することができなかった（ルカ伝 十六〇十九―三十一、ラザロと富める人との記事参照）。しか

し、キリストが霊界へお出でになって始めてこの深い淵に橋渡しを為したまい、神権を帯びた者たちの霊はここを渡って他の霊たちに福音を宣べ伝えることができるようになった。「その日主はたかきところにて高きところの軍兵を罰し、地にて地のものもろの王を罰したまわん。かれらは囚人が穴に集めらるるごとく集められて、ひとやの中にとざされ多くの日を経てのち訪れを受くべし」(イザヤ二十四・二十一・二十二)というイザヤの予言はこの間の消息を明らかにしていると言えよう。イエスが十字架受難のときにあの強盗の一人に仰せになった言葉の真意は「われは今日汝を霊界へ連れて行ってやる。そこで汝は望みの如く拯救の道を説き聞かされるにちがいない」というのであった(ジョセフ・フィールディング・スミス長老著「救いの教義」第二卷二三〇頁)。

四、霊界で宣べ伝えられる福音

第六代の大管長ジョセフ・F・スミスは千九百十八年十月の三日ペテロ前書三章十八―二十節にある聖句を読み且つ冥想をしている時示現を与えられて次のように誌し

ている。

「私は不思議に思った。というのは、救い主はユダヤ人とイスラエルの家の子らの中で約三年の間導きと恵みを施すことに時を費し、永遠の福音を彼らに教え彼らが悔改めをするように努めたもうたのに、イエスが偉大なみ業と数々の奇蹟を行い、大きな権威と権能とを持って真理を宣べ伝えたもうたにもかかわらず、イエスのみ声を聞き御前に在って喜びイエスの御手から救いを受けた者は僅かにすぎなかった。然るに、イエスが死者の間に在って導きと恵みを施したもうた時間は十字架受難と復活との間にはさまる短い時間に限られていた。よって私は、『神の御子がひとやに在る霊の所へ行つて教えを説きたもうた。これらの霊は昔ノアの時代に(方舟の備えらるる間)寛容をもつて神が待ちたもうた時に従わなかった者どもである』という意味のことを述べたペテロの言葉をいぶかしく思い、またこのような短時間にイエスがこれらの霊に教えを説き彼らの中で必要な働きをなさることができ得るであらうかと思つた」。

「私が不思議に思っていると、私の眼は

開かれ私の悟りの力は生き生きとなった。そして私は、主は真理を拒んだ悪人や不従順な者たちの中へ親しく行つて教えを説きたまわなかつたことを感知した。然し、ごらん、義しい者たちの間から主は主の部隊を組織したまい、福音を伝える者たちを任命し、権威と権能とを彼らに与え、暗黒の中に在る者いかなすべての人の霊にも、出て行つて福音の光明を与えることを委任したもうた。このようにして福音は死者に説き聞かされたのである。

選ばれて福音を伝える者たちは出て行つて福音を宣べ伝え、もろもろの罪を悔改めて福音を受け入れるすべてのとりこに解き放ちを宣言した。このようにして、真理を知らずに罪を抱いたまま死んだ者たち、或いは予言者の言葉を聞き入れずに罪とがを犯したまま死んだ者たちに福音が宣べ伝えられた。これらの者は神を信ずる信仰、罪の悔改め、罪を赦されるための身代りバプテスマ、按手によつて聖霊の賜を受けること、そのほか彼らが肉に於ては人間としてさばきを受けるが、霊に於ては神に従つて生きるための資格を得るために知らなければならぬ福音の諸原則を教えられた」(ジョセフ・F・スミス大管長著「福音の教義」第七版四七四・四七五頁、ペテロ前書三〇十九・廿、四〇六参照)。

極東に於けるモルモン

私の改宗

渡辺 八重子



何の文才もないのに私は小さい時から文学というものに非常な憧れを持っていた。少女時代にちょうどそのような環境に恵まれたせいか、よく解らぬまゝにもいろいろな本を読みあさった。そして詩、歌など自分でも創ってみたりしていたが周囲に良い先生が沢山いたせいか思いがけなかった俳句の方に専念するようになった。そして暇さえあれば本を読み、句会に行ったり吟行に行ったり、俳句を通して美の探究がこれが私の生きる道だなんて生意氣なことを考へていた。而し今思つてみると決して無駄なことではなくこれも

な私がこの道に入るための準備段階として神さまがみちびいて下さったのだと思う。もともと自然の美というものに対しては深い関心を持っていたが、作句するようになって更にそれが強くなった。道のべに咲いてる名もない雑草の可憐な美しい花をみつめている時、又一輪の机上の花を眺めている時その巧みな創造の美と力にいつも驚いていた。そして夕焼空の刻々と変わりゆく美しい空を眺めているも、あゝきれいだ、こんなに美しいものがどうして存在しているんだらう？確かに神さまというものがいられるんだな！と思つていた。然し神とはどんなものであるか等と考へてもみず至極のんびり悠々と暮らしていた。そんな私にも、人間一休何のために生きているのか、毎日毎日同じことの繰り返しで、つまら

ない〃というようなことを考へる時期が来た。そして何か解らぬまゝにも〃救い〃を求めてメソジストの教会に二、三回行きかけた時、天王の市島さんにアメリカ人の宣教師が来ていて集会を開いているということを知り、早速友達と一緒に行ってみた。その時の宣教師はマックダニエル長老、カラマ長老、パーカー姉妹（今のアンドラス姉妹）、竹内（フライス）姉妹の四人であった。当時教会の参考書も少なく宣教師の日本語も乏しかったが私には彼らの話すことがみな理解出来た。今思つても不思議な位だが全く心から信じられた。彼らの幸福にみちみちた〃働き〃をみている時〃これこそ人を幸福にみちびく道だ〃と信じられた。始めて行ったその日から殆んど休まずに集会に出席した。又家でも家族と共に家庭集会をうけた。長老の日本語が私が日本語に通訳したりして。……未だ一人も信者のいなかった時なので求道者の時からいろいろな仕事を手伝わせて頂いた。それは本当に楽しいものであった。そして六ヶ月程経った時みたまのみちびきと神のつかわし給うた立派な僕のお蔭で一九五〇年三月十一日、日本海でバプテスマをうけることが出来た。バプテスマをうける時〃生れ変わる義式〃

として断食をして祈り非常に厳肅な気持ちでうけたのだが当時は教義に対する知識が浅く、こんなにも大切なこんなにも偉大なまたこんなにも幸福な道につづく門々であることは知らなかった。にもかかわらずこれが唯一の救いの道として私が選んだのは神さまのみたまのみちびきがあったからこそ私の心の窓も開けて真実の道を見出すことが出来たのだ。そしてこうして十年間只の一度も神や教会に對し不信の念を抱くこともなく素直に生きて来られたことは真に神の大いなる愛であると心より感謝している。会員になつてから伝道する機会も得、又現在神権者と結婚し神の靈の子供を迎えて幸福な家庭にある時、全く神の愛は限りないのでこの福音は知れば知る程奥深く素晴らしいものであることを証する。もしもあの草深い田舎（新潟県北蒲原郡中浦村天王）に神さまが宣教師をおつかわしにならなかつたら……。また私がちやうどその時田舎に歸っていなかつたら……。真に奇しき御業を喜び讃えずにはいられない。平凡な改宗で平凡な信仰生活ではあるがこのささやかな体験の中にも神は生き給ひ、御めぐみは限りなく、この道こそ真の永遠の幸福をもたらしてくれるものであることを証する。

「御言葉を聞くのみならず これを行うものたれ」

エルドレッド・G・スミス
(大祝福師)

私は今、本当にしばしば口にされる話ではあるが、ワード部にあって不活潑となつた会員を訪問した一監督にまつわる話を想い出している。この監督と不活潑になつた会員の二人は石炭の火が赤々と燃えている暖炉の前に黙つて坐つていた。ところでどのようにして話を進め、また話を主題へともつて行つたらよいかと考えていたと思われるこの監督は、やおら手を伸し火ばしでもつて火の中から赤々と燃えている一つの石炭をとり出して、炉辺に置いた。

二人は黙つたまゝ坐つて赤々と燃えている熱い石炭が徐々に冷くなり、黒くなつて行くのを見つめた。それから監督はまた火ばしでもつて石炭をつまみあげて赤々と燃えている暖炉の火の中へ入れ、その石炭が再び赤々と燃え、熱くなるのを見つめていた。未だに一言も話されなかつた。

しかしついにこの会員は「監督さん、私はあなたが何を話しにいらつしたか分ります」と云つた。共に集ることによつて我々の証の火は生き／＼と赤く燃え続けるのである。共に集ひ、共に働くことによつて我々は信仰に於ても知識に於ても大いに飛躍進歩するのである。我々は集會に出席することにより主の誠命を遵守しているのである、がしかし教会に於て進歩するために、それだけでは不十分である。もし我々が集會に出席するだけで止まつてしまつたならば我々は他の教会の人たちと大して違わないのである。

ヤコブは「ただ御言葉を聞くのみにして、己を欺く者とならず、これを行う者となれ。それ御言葉を聞くのみにしてこれを行わぬ者は、鏡にて己が生來の顔を見る人に似たり。己をうつし見て立ち去れば、直ちにその如何なる姿なりしかを忘る」（ヤコブ書一章二十二―二十四節）と云つてゐる。

結

婚

と

家

庭

渡部正雄

○彌雲立つ 出雲彌重垣 夫妻隠みに

彌重垣つくる その彌重垣を

これは建速須佐之男神が歌われたもので我
国最初の歌であると言われているが夫婦は一
体で中心をなし家庭が人類社会国家の基礎を
なしていることを歌っている。

聖書の中にも

「斯る故に人は父母を離れ その妻に合いて
二人のもの一体となるべし」マタイ伝十九・五
「神の合せ給いし者は、人これを離すべから
ず」マタイ伝十九章六節

と記されてあるが日本でも神道では天照大
神の祖神、神世七代の最後の対神としていざ
なぎいざなみの神を並べ称している。

人類の幸福を追求するあらゆる宗教または
思想哲学が究極に於て人類社会の単位である
理想的な家庭の建設に向けられているように

あるが、完全な福音を持つわが末日聖徒イエ
スキリスト教会の会員たちは幸にも、これに
関して完全な教えを受けているのである。

○永遠の結婚と日の栄に進む家族

神殿で永遠の結婚をした末日聖徒の夫妻は
永遠に結ばれる。そして二人の間に生れた子
供は誓約の子として永遠に両親に結び固めら
れ、家族のちぎりは死を越えて永続するので
ある。

このような末日聖徒の家庭内には彼らが正
しく主の誠命に従って生活している限り、争
いや混乱、また悲しみや、恐れはないのであ
る。ただ愛と平和と相互扶助と喜びと希望が
あるのみである。

赤坊の誕生、または成長した子供の結婚は
もちろん、栄え行く家族に贈る大いなる神の
祝福であり、家族にとって一大慶事ではある

が家族員の死に際しても我々は人間の情とし
て涙を流すが、その家族員がより進歩向上せ
んが為の霊界への出発としてこれを祝い、ま
たすでに結び固められた一家族としての相互
のきずなは死によっていさゝかもそこなわれ
ず永続していることの自覚の内に誠に幸福な
のである。

○代々に結ばれる家族

この夫婦親子の一つに結ばれた家族は更に
系図探求と神殿内の儀式によって先代へと代
々結ばれて人類の始祖であるアダムとイヴに
まで連結されて行くのである。現世に於ける
資料の不完全または不足の為我々は最善の努
力をなすともわずかな探求しか出来ない。け
れども我々が最善を尽している限り主は大い
なる祝福と援助を賜るのである。福千年に至
って墓より出で来った多くの義人は我々の探
し得なかった多くの情報をもたらして生ける
者に協力し神殿の仕事は地に満ち亘るのであ
る。父知り給わずしては一羽の雀も地に落
つることなからんと言われた主はかつてこ
の世に生存した一人の義人をも見逃し給わな
いのである。主は祝福を受けるに値するすべ
ての人を祝福し彼らは如何なるものをも失わ
ない。福千年間の仕事は大部分、その生ける時

に祝福を受ける機会のなかった、そしてもし機会があつたら受け入れていたであろう死者の爲になされる仕事である。義はこれを要求している。この故に我々は若い男女が結婚の機会なくして死んで行くことを憂いとすに足らない。価値のあるすべての人は、あたかも彼または彼女が生きて祝福を受けたかのよう祝福されるであろう。婚約してからその女性が死んだ場合彼女は夫たるべき婚約者に結び固められる。またこの福千年の間に幼少にしてこの世を去つた者たちの永遠の結婚が適切に行われるのである。霊界に在るこれらの霊たちが彼らの永遠の配偶者として如何なる希望と選択を持っているかを我々は知らされるからである。主はこれらの子供たちに最高の榮にまで進む、すべての結び固めの祝福の特権を与えるであろう、すべての祝福は彼らの従順さによってあたかも彼らが成長するまで生きてこの世で受けたかの如く彼らのものとなるであろう。

○忠実な未婚女性の将来

独身の忠実な姉妹たち、貴方たちは最高の祝福にあづかれないと思つて心配する必要はない。貴女たちはまた主に咎められるであらうと恐れねばならないような申込みを受諾す

「舟はラネである」

昔の話である。東北の或る県の山の中の或る分教場へ県視学（そういう役人もありましたね）が視察にやつてきた。さて毎年十月の始めともなれば峠の細道の両側は見わたすかぎりすすきの白穂が風になびき、一晚木枯しが吹きすさんだ翌日には満山の枯葉が一度に吹きはらわれて全山の立木ははだか同様、いとど寒さが身にしみる。見はるかす羽越山脈の北端の尾根にはすでに新雪が日に輝やき、村人は冬の支度を想い起して何となく心せわしく落つかない。こんな時こんな所へ県視学が視察にやつてきた（と思つて下さい）。何しろ、いろは四十八折の峠の上り下りにも太古同様の静寂を破つて聞えるものとして、この冬限りの命と知つてか哀れに泣きしきる捨て猫の声か「山おんつあん」（お猿さんのことです）の物騒い叫び声ばかり。と言つたような山の中とて、さて県のお役人さまの御来臨とあれば小さな学校もてんやわんやの大騒ぎ。さてその騒ぎもようやくおさまつていよいよ当日の授業参観となった。その日の

授業は読み方、担任の先生が気合いを入れて熱心な授業、いつもの鼻たれ共も今日は神妙に控えて脱線もせず一時間は無事安穩にうち過ぎた。ところで講評会の席上視学殿が妙なことを言い出した。

「ええ、今日は読み方の授業を見せていただきまして、おおむね結構だと感じました。詳細はだんだん申し上げることに致しますが、その前に担任の先生に伺つておきたい。と申すのは、今日の授業の中に舟という字がたびたび出てきた。ところが先生はそれを「ラネ、ラネ」と言つて教えておられたがあれは何かわけがあつてのことかお伺いしたい」

「そのことであります」と担任の先生が一ひざ乗り出して答えた。

「本日は特に視学殿の参観を辱うするものでありますから、特に念を入れまして漢和大辞典を引いて準備を致しましたところ、辞典には舟という字のところに「ラネ」と仮名が振つてございます。通例舟は「フネ」と読むのでありますが本当は「ラネ」と読むのが正しいのかと思ひそう教えたのであります」

る如何なる義務をも負うていない、貴女が義しい信仰生活が続け神の御意志にそうような神殿内での永遠の結婚を望んでいる限り、たとえその希望が現世で実現されなかったとしても、その祝福は来世に於てもたらされるであらう。そしてすべての義人は遅かれ早かれ結び固められた家族の一員として最高の榮えに進む完全な機会を持ち、平等の機会を与えられていたのである。ただ、彼または彼女がすべての彼らの血族者に受入れられる者でない限り、神聖な完全な家族関係に於て永遠に続く結び固めのきずなにあづかり得ないのである、主はすべての人の自由意志を尊重している。我々はこの榮えある家庭の理想へ向つての我々の精進を自覺して賢明にこの自由意志を使う義務を有しているのである。



休憩室

「ふふーん。ではその辞典を一ぺん拝見いたそうか」

「はっ、かしこまりました」

というわけで図書室からその漢和大辞典が持つて来られ、視学殿の眼の前に置かれた。視学殿を始め一同が眼をこらして舟という字のところを見ると、なるほど「ラネ」と仮名が振つてある。へへえ、舟という字は「ラネ」と読むのが正しいのかなあと一同が感心した。

ところが、視学殿はなお食いつくようにじつとその字を見つめている。やがて何と思つたか息をこめたと見るや「フッ」とその字に烈しく息を吹きかけた、ハッと一同の視線がそこへ集中する。するとアーラ不思議や「ラネ」という字はいつの間にか「フネ」という字に変わっていたのである。「フネ」の「フ」の字の上にゴミが一つついていたのであった。

(教訓) ニーフアイ第三書十三章廿二節を

参照

* * * * *

かんにんの四字

昔ある物知りが文盲の男にお説教をし、「堪忍の二字を守れ」と教えた。ところが、「かんにんなら四字でしょうが」と文盲の男は答えた。

「困った文字知ずだ。堪忍は堪え忍ぶと書いて二字だ」

「おやたえしのぶなら、また一字ふえて五字でしょうに、おかしいな。なんととおおせられても私めには四字と思はれますから、四字でかんにんいたすことに仕りまする」

堪忍を教える物知りはついに堪忍ぶくろを破りかけ

「さてさてお前のような愚昧な文盲には教えようがない。人に似て虫ケラ同然、勝手にするがいい」とどなると文盲の相手は笑い出して、

「なんとおおせられます。私めはかんにんの四字を知りましたので、なんと愚にされましても、すこしも腹はたたないのございます」とすましていた。

Ⅱ 求道者のための読物Ⅱ

モルモンとは

(2)

ゴルドン・B・ヒンクレー

二、彼らは何を信じているか？

末日聖徒は彼らの宗教的規範の内にあらゆる道徳的標準および新約の基本的教義をおりこんでいる。彼らは黄金律を、よい働らきの必要な事を、信仰、悔改め、バプテスマを貞節とほまれをまた祈りの必要性と効力を教えている。この点に於て彼らは多数のキリスト教各宗派の間に於けるもう一つの宗派に過ぎないように見受けられる。

これにもかかわらず彼らは屢々異端者と見なされている。ローマカトリック及びプロテスタント教会の信仰告白は彼らの神学の中に

与えたのである。

神と人

モルモンの教えの根本は天父と御子イエスキリストと聖霊に対する信仰である。けれどもモルモンの考えは決して漠然たる信条ではない。それは簡明卒直である。

神は人のような形を持ち給う。神は人格性を持ち語る事が出来、かつて人に語り給うた。

神は栄光化されて居り、人間的な標準に照らして見る時、全智全能でありかつ慈悲深く親切である。神は全人類の霊の父でありその

は見出されない。この事はモルモン教は今日の如何なる教会より生れ出たものでもない事を物語っている。

それは聖書の教えに始まる。そしてそれは信者たちがいわゆる現代の啓示と呼ぶ聖典によって補足完成される。この結合はその運動に特別な力と風趣を

子供に對しお父さんとしての思いやりと関心を持つている。神の業と栄光は子供たちの永遠の福祉の内にある。

イエスキリストは肉体を受けて生れた神の息子である。彼は生活し、死にそして新約に書かれてある如く文字通り復活したのである。彼は世の造られる前に出た計画に従い人類の救主であり贖主であった。彼は明白な形と人格を持って今もなお生きているのである。聖霊は霊のお方であるがなお人格性を有している。これら三方が神会を構成している。

教義は明確である。それは後章に詳述する顯著な体験の結果としてもたらされたものである。この教義の効果は強力である。何となれば信ずる者たちはほんとにちかしい人に対する如く神に祈るからである。

人とは何か？

人は実際に神の子である。宇宙間に於て個人より重要なものはない。彼の霊は神より受けたのである。モルモンの概念に於て神の親心人間の兄弟愛々と言う文句は新しい強力な意味を有している。

人は神の最大なる創造物である。人の為に世界は造られたのである。人の福祉は天父の

最大なる関心事である。けれども神は人を人質に造らなかつた。神は人に勧告しまた指示するけれど決して強制しない。人は自由に自分の道を選ぶ事が出来る。モルモンの神学の中には宿命論はない。自由意志は神より賜つた聖なる賜物である。ここに昔からの質問「もし神がその子供たちを愛するなら何故戦争や闘争や悪魔の類を許すのか？」に対する解答がある。何となれば人は善と悪および生と死と死滅の間に於て彼の道を選ぶところの犯すべからざる権利を与えられているからである。神は彼を求める人を助けるだろうか？

然り、けれどもすべての祝福は律法に従順なることを前提とする。故に人は神聖な原則に生活して神の祝福を求めねばならない。ただ神を求め神の御意志を行う者のみが神に要求する事が出来る。

人生はどれ程長いか？

人は永遠な存在である。靈的実体の個人としてこの地上に来る前に住んでいた。ワーズワースはこの偉大な真理を次の不滅の詩に書いた。

我々の出生は一つのすい眠と忘却に過ぎない

我々の内に在る靈魂は我々の生命の星であり

何処かで光っていたのであつた

そしてその遙か彼方から来たのである。

まるっきり忘れてしまうことなく

またまる裸になることもなく

栄光の雲のたなびきに乘つて我々は来たのだ

我々の家庭である神の許から

死すべき肉体を持ったこの地上に於ける生涯は偉大なる永遠の行進の一段階に過ぎない。

ここで我々は経験し改善し成長する機会を持つ。そしてここで我々が信ずる事に基いて我々は墓の彼方の生命に成長を続けて行くであらう。

来世に於て我々は専断的に天国に住む者と地獄に住む者の二つの組に分けられてしまうものではない。イエスは「わが父の家には住処多し」と言われた。そこには各段階に分れた居処がある。其処にまた活動及び勉学があるであらう。ここで我々がお互に知り合っているようににそこでもお互に知り合うであらう。我々の個人的実在は存続するのである。

我々がこの生涯に於て達成した英智の原則は復活の時に我々と共によみがえるのである。

「神の栄光は英智なり」これがモルモンの格言である。人生には目的がある。それは進歩であり神へと導かれるものである。

末日聖徒の哲学の中には生れ変りや、ねはん又静止せる天国および熱炎の地獄等はない天国は改善と達成によつてもたらされた成長の中に横わっている。それは神の誠命に従順な事によりこのゴールに到達した人たちの為の場所である。

神 権

モルモン教で神権と言うのは他の教会で「神の名に於て行動する権能」と言っているのに或共通の意味がある。けれども末日聖徒の間に於てはそれは神学校または大学で教育された少数の人のみに限られていない。

十二才以上に達したすべての成人および少年は教会の標準に順応する限り神権を持つことが出来るのである。百万の会員の内二十七万一千余人の人が各異つた職に於て神権を持つている。

神権には二つの区分がある。アロン神権とメルケゼデク神権である。アロン神権は教会

内の外形的（肉体的）な事項をつかさどりアロン神権を含むより高い神権であるメルケゼデク神権は主として靈的事項をつかさどる。

これらの神権の各々に異なった階級がある。アロン神権に執事、教師、祭司があり、メルケゼデク神権に、長老、七十人および大祭司がある。少年は福音の原則にふさわしい限り十二才で執事に聖任される。彼らが成長するに及んでその生活状態により各種の職に聖任される。

各職はその職特有の責任と権能、各種のグループを管理し最高の場合には、教会それ自体を管理する権能をも含んでいる。

この神権は教会およびその信者をその宗教活動に於て治める権能を持っているがその実施方法は明確に制限されている。思うに教会の律法は次に読まれる如く神聖に定義されている。

「如何なる権力も勢力も神権によりて維持する能わず、または維持すべきものにあらず、ただ説服と堅忍と温情と偽らざる愛とによる。また親切と淨き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。」

教会の中に統治の精神が設定されている。

そこには強制も独裁もない。指導者の地位に立つ者は愛の精神を以て行動し偽善や奸智を以てすることなく強制せず、懇ろにすゝめるのである。

啓示

モルモン教の基礎は現代の啓示の原則である。「われらは、すべて神のこれまで啓示したまいしこと、すべて今啓示したもうことを信じな。お今より後、神の王国について多くの偉大にして重要なことを啓示したもうことを信ず」これは教義を公に宣言したものである。

キリスト教徒とユダヤ人は一般に神はその昔自己を顕現し人を選んで命じたと言う考えを持っている。モルモン教は神聖なる神の導きは比較的単純であったヘブライ人の時代と同じく我々の今日の複雑な世界に於ても大いに必要であると考えている。旧約新約両聖書の中に記されてある根本的真理はそれが宣べられた時代と同様我々の今日の世界をも支配している。而も我々の日常生活は数世紀前には知られなかった数々の問題を含んでいる。その上聖書の或教えは記録の不明な為いろいろ異つて解釈され多くの思慮深い人々は如何

に信じてよいかわからずに居る。

もし神が昔語ったとしたら我々は今日に於ても神が語ることが出来ると信ずる事は不当であろうか？どうして人は神の自己を表現せんとする権利を否定しようとするのか？

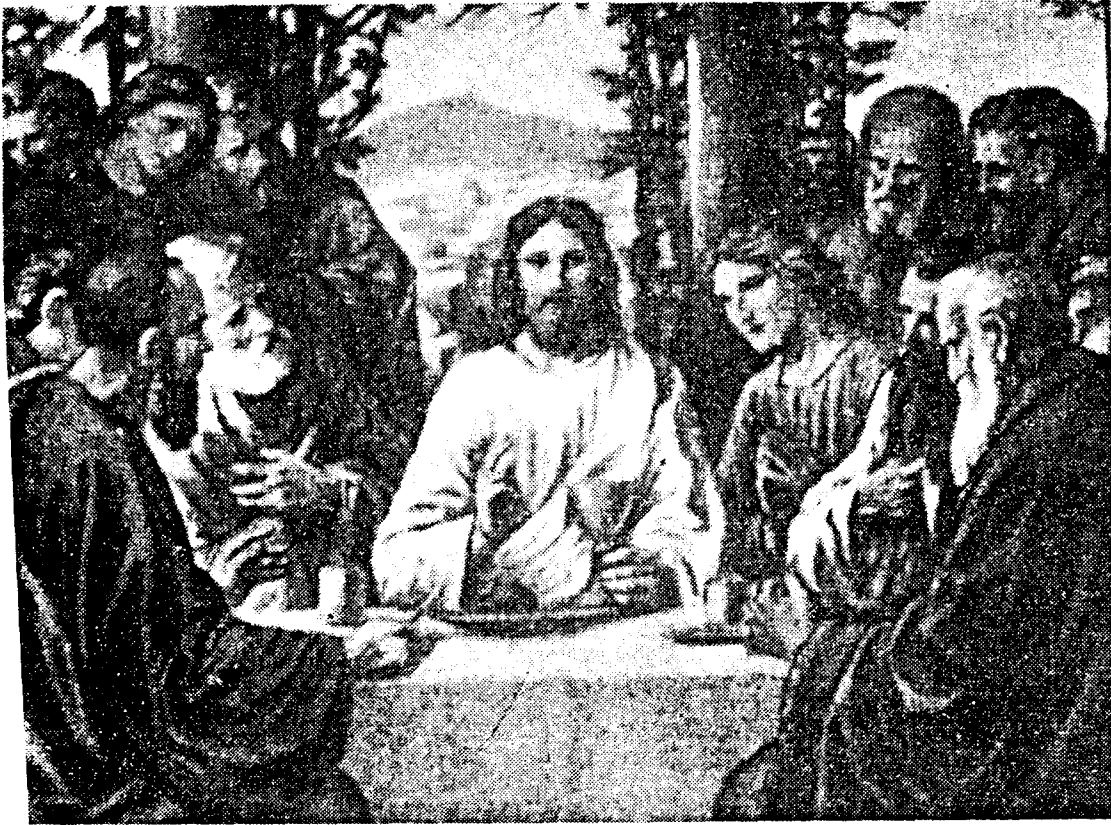
本質的にモルモン教は我々今日の世に新しい強調と完全さを以て神聖に宣言された昔からの原則にのつとる現代の啓示を主張する。

聖書は何か？

聖書は人によつて書かれた神の言葉である。これはモルモン教の基礎である。けれども末日聖徒はその書が我々に伝わつて来た道程に於て誤りがその聖典の中に入つて来た事を認めている。のみならず彼らはその聖典が指導書として完成されたものでないと見なしている。多くの異つた教会組織および根本教義に対する解釈の相違意見の衝突は数百年の宗派を形成する結果となりこれは聖書の不完全さを証明するものである。

聖書を補足して末日聖徒は三冊の他の書物を持っている。これらの書は聖書と共に教会の標準聖典をなしている。それらはモルモン経、教義と聖約、高価なる真珠として知られている。

十二使徒



最後の晩餐

イエス・キリストと
その使徒たち

デビド・O・マッケイ

私はまず皆さんが「時の絶頂」の時代のイエス・キリストの使徒たちを出来る限りよく知って、次に救主によって彼らに与えられた特別のお召しを考えるようにすすめる。

最も大切な点はキリストが十二使徒を選ぶのに祈りの精神を以てのぞまれたことである。もしも貴方がルカ伝六章の十二節から十六節まで読むならキリストが十二使徒を選んだ概略を見出すであろう。十二節は特に重要である。「その頃イエス祈らんとて山にゆき、神に祈りつつ夜を明したまふ」

ここに神会のお二人の方（キリストの祈った父なる神、と「時の絶頂」の時代およびすべての時代を通じて福音を確立する責任を持った子なる神）の存在が非常に、はつきりしている。「夜明になりて弟子たちを呼び寄せその中より十二人を選びて、之を使徒と名けたまう」

或人が十二と言う数に何か重要な意義があるのかと問うた。私はあると信ずる。イエスが最初に訪ねたのはイスラエルの十二支族の子孫であった。彼らは地上の王を待ち望み、この十二支族の頭に立つであろう人であった。聖文の何処にもイスラエルに十二支族があったからイエスが十二人を選んだとは、は



アンデレ



ペテロ

つきりとは述べられていない。けれども暗示されている。

もしも貴方が教義と聖約の二十九章十二節をひもとくなら次の言葉が見出されるであろう。

「また誠にまことにわれ汝らに告ぐ、エルサレムに於てわれと共に導きと恵みを施す業に従いたる十二人の使徒たち、われ火の柱にて来る時わが右の方に坐し、正義の衣を着け、われと同じく栄光の冠を頂き、以てイスラエルの全家を、すなわちわれを愛しわが誠命を守りし者にほかならぬ者を審かんこと父の御旨により固き神の命として出でたり。」

このように十二が組を構成する数として選ばれ、キリストの伝道の時代にもそうであった。我々が使徒行伝に於て探し得る限りに於てもそうである。欠員を生ずる都度、それが補充されて正確に十二人の数が継続したかどうかをはっきりと確めることは困難であるが、我々はイスカリオテのユダによって生じた最初の欠員が、仕事に着手する前に補足されたことを知っている。そして使徒時代を通じてその方針は継続されたと推察出来る。いづれにしてもこの時満ちたる神権の時代に於て主は再び十二人を選び、またニーファ

イ人の中からも十二人の弟子を選ばれたのであった（ニーファイ第三書、十二章一節及び十五章十一節十二節参照）このようにこの会に関係するこの数に或重要な意義があるように思われるのである。

貴方がもし新約聖書の或ところを読むと或名前が出て来、他の箇処を読むと他の名前が出て来、また更に第三の箇処を読むと更に異なった名を見出す。

ちよつと私の言うところに耳を傾けてごらんなさい。ルカは救主が選んだ最初の使徒はシモン（ルカ五・十）であると我々に告げている。彼が仲間の間で最もよく知られていた名は、ヨハネの子、シモン（ヨハネ、一・四二）である。けれどもキリストは彼をケバと読んだ。それはヘブライ語で岩または石と言う意味であり、ギリシャ語で岩または石を意味する言葉はペテロまたはピーターである。救主はペテロの内に岩の如きまた花崗岩のような資質を認めて居られ、動揺しがちであった彼もその後救主の認められた性格にそむかない者となった。

アンデレは彼の兄弟であり、これらの人は漁夫であった。

ヤコブとヨハネはゼベダイの息子たちであ

った。彼らの母親の名はサロメであつた。そして彼女は、その息子たちのことを誇りに思っていた。ヤコブとヨハネは「雷の子たち」として知られた。一つの説明として聖書は次のようなことを我々に告げている。イエスと、十二使徒が或時サマリヤを通つて来た時、あまりに冷遇されたのでヤコブとヨハネは、これに反抗して、「主よ、我らがエライジャのなした如く天より火を呼び下して彼らを滅すことを欲し給うか」と言つた。(ルカ九・五四)これは通常ヨハネの性質として知られている愛にそぐわないのではなからうか？これは実際には彼は恐れを知らず義に対して容赦しなかつたことを示しているのである。ヤコブは教会の最初の殉教者となりそこに彼の雄大な性格が示されている。老ヘロデはヤコブに敵意をいだき復讐したのであつた。ヤコブは一人の兵士に裏切られたのであつたが、その兵士はヤコブの人となりを見て悔改め、伝統の伝えるところによると彼は赦しを乞うて最初の大いなる殉教に死んだのであつた。多くのヤコブと言う名があるので、これはゼベダイの子、愛せられたヨハネの兄弟であることを銘記すべきである。彼は最初の十二使徒の一人に選ばれた。大ヤコブであつた。



ヨハネ



ヤコブ

次にピリポであるが彼はベツサイダの出身であるが彼に就てはあまり知られていない。伝説は彼がフィギヤで説教しヘラポリスで死んだと告げている。彼はサマリヤで福音を説いたピリポとは違ふ(伝徒行伝八・五)

次にバルトロマイである。バルトロマイはピリポが始めて救主と知りあつた時に探し求めたナタナエルと同一人である。バルトロマイは疑いもなくナタエルでイエスは彼を指して「視よ、これ真にイスラエル人なり、そのうちにいつわりなし」と言つた(ヨハネ・四七)

マタイは彼自身が名乗っているように(マタイ、十・三)取税人で、アルパヨの息子であつた。我々はそれがヤコブの父のアルパヨであつたかどうか知らない。もしもそうであるなら彼らは兄弟となるか我々はその判断を下すことが出来ない。マタイはアルパヨの子でガリラヤの海のカペナウムの徴税者であり、取税人として知られるようになった。彼は、ユダヤ人によつてさげすまれていた平民たちと交際していた。彼はまたレビ人として知られていた。

トマスはクティダイマスとあだ名されていたがそれは双生児を意味し、やはりこの時

に選ばれた。

さて身分証明の困難な弟子たちを見てみよう。『小ヤコブ』として知られているもう一人のヤコブはゼベダイの子のヤコブと違ってアルパヨの子であった。アルパヨと言う名はありふれた名であったから、マタイの父と同一人ではないであろう。而してまた『小ヤコブ』を主の兄弟のヤコブと混同してはならない。我々は主の兄弟であったヤコブが十二使徒の一人として支持されたと言うことを何処にも見出すことは出来ないのである。

彼は『大ヤコブ』の後を継いで選ばれたかも知れないがそれは証明されない。もしも彼が最初に彼の兄弟の神聖な使命を信じなかったとしたら復活後にイエスを受入れたに相違ない。『小ヤコブ』は『ヤコブの書簡』の著者ではない。この書簡の著者はユダヤ人と異邦人に関する或問題の為、初代教会が破滅の脅威を受けていた時エルサレムで使徒会に席を占めていた主の兄弟であった。

『小ヤコブ』の次に熱心党のシモン、またはカナン人のシモンが居る。どちらも同じである。実際には熱心党に対しアラム語でカナン人と呼んだのである。故に恐らく熱心党のシモンはイエスに逢う以前に治安にたずさ



バルトロマイ



ピリポ

わる宗教的自治警察に類する熱心党の一員であったのであろう。我々は彼に就てほんのわずかしら知っていない。彼は十二使徒の内でも最もわずかしら知られていないのである。

次にユダであるが十二使徒の中には二人のユダが居るから混同してはならない。この男はレバイまたはタダイとも呼ばれた。そしてヤコブの兄弟であった。権威者たちは彼がユダの書簡の著者である主の兄弟のユダと同一人であるかどうかに関し意見が一致していない。

最後にイスカリオテのユダが居る。これはその主人でありキリストであるお方を銀三十枚で売った裏切者である。わずか数時間の後に彼は自殺を以て自らの生命を絶ちその屍体をポーターの野にさらされたのであるが彼の生涯は、大いなる裏切りを除いてすべて忘れられてしまったのである。

ペテロは漁夫でありアンドレもヤコブも、ヨハネもそうであった。私はナタナエルも、そうであったと信ずる。イスカリオテのユダはそうでなかった。私は熱心党のシモンはそうでなかったと思うが彼らは貧しい平民であった。マタイは徴税人であった。

どうしてこれらの人たちを偉大だと言うの

であろうか？ 我々今日の社会に於てこれらの人たちより貧しい人はほとんど居ない。しかもおよそ二千年の後にも世の人々はこれらの人たちを偉大だと考えている。私は何故彼らが偉大であるかを貴方に告げよう。それは彼らが単にイエス・キリストの教えと理想を受入れたからである。彼らは財力的に偉大であつたのではない。また政治的に偉大であつたのではなく、また偉大なる作家であつたのではない。けれどもその性格に於て特に偉大であり、そのことが私をまた貴方を勇気づけ励ますのである。如何に低い身分でもまたありふれた働らきをしていようと、この偉大な領域に入ることを妨げないのである。この使徒たちが今日、世界に知られている唯一の理由は、キリストおよびその福音に対する彼らの忠実さの爲である。もしもそうでなかったら彼等は世に知られることなくちやうど海に投入れた岩が沈むように、宏大な人類の海の中に沈んでしまつていたであらう。

十二使徒の務めはどうであつたであらうか、我々は彼らが聖任されたと聞いている。マタイ伝から推測するのに救主は単に彼らを聖任し権能を授けたばかりでなく、悪霊を追を出し、病癒し、また人を悩ます靈に打ち克つ

能力をも授け給うたのである。そして彼らを生命の作者としての神を代表させ権威を授けて遣わしたのである。主はこれら十二弟子の前に二つの大きな目的を置いたのである。もしも貴方がマタイ伝十章を読めばキリストが最初に彼らを遣わした時の指令を見出すであらう。キリストが最初に使徒たちに与えた任務は一時的なものであつた、それはマタイ伝十章五節から十五節の間に含まれている。「異邦人の途に行くな、又サマリア人の町に入るな、寧ろイスラエルの家の失せたる羊にゆけ」(マタイ十・五一六)

彼が如何に制限したかを見なさい。實際に於て彼は失われたイスラエル家にのみ行くことが現在の貴方の任務でユダヤの教えから遠ざかつてゐる爲にユダヤ人から信頼されてゐないサマリア人に行くなと言われたのである。最初のこの任務による伝道に於て如何なるサマリア人も福音を受入れなかったのである。

第二番目の部分はマタイ伝十章十六節から二十三節の間に見られる。ここに当時の福音伝道に就てより多くが述べられている。ここでイエスはその適用に就ての一般原則の或点にふれられて居るのである。その一つは「他



トーマス



マタイ

人を善くする為に汝自身を失え」と言うことである。

それから第三の部分は二十四節から四十二節までである。キリストは更に広汎な適用を与えているのである。

「然れば汝ら往きて、もろくの国人を弟子となし。……(マタイ二八・一九)は、キリストの死後復活してから与えられたものである。その相違は第一は直接の使命、第二は福音の一般的適用、第三は約束を以て遍く任命したのである。彼らの上に主は福音を全世界に宣べ伝える責任を負わせたのであった。十二使徒は特にこの命令を果たしたのであるが、最初は異邦人でなくて単にユダヤ人のみに行くべき彼らの召しを嚴重に守ったのであった。

キリストが十字架にかかってからペテロおよびその他の者が伝道を受持つて行ったのであるが彼らはサマリヤ人または異邦人に行くことをさし控えていた。貴方は神がペテロに示現を以て或る器を示しそれが天から降って来た時に、その上に禁じられた肉があったのを覚えているであろう。そして彼は次のような声を聞いたのである。

「ペテロ立て、屠りて食せよ」そこで彼は言

った。「主よ、可からじ。我いまだ潔からぬもの、穢れたる物を食せし事なし」(使徒行伝十・十三―十四)彼がこの示現を見ている内にローマのバンドの指導者(或日曜学校教師が言っているようなプラスバンドではない)百卒長コルネリオからの二人の使者が戸を叩いたのである。

これは十二使徒会長であったペテロにもたらされたのであつてパウロでなかったことに注目せねばならぬ。パウロは異邦人の為の使徒であつたが、福音が異邦人にもたらされる時、それは教会の組織された権能を通じて与えられたのであつた。そこでペテロはその使者に導かれて、ユダヤ人の慣習に反してローマの百卒長である異邦人の家に行ったのである。このようにすることはユダヤ人にとって容易なことではなかった。そして彼は坐して彼らと共に食したのである。貴方は彼が如何にして、義しいことを行っているかを認識したかを知っていますか? 彼はコルネリオが彼と同様に聖霊に与っていることに気付いたのである。これは新約聖書の中でバプテスマの前に聖霊が与えられた唯一の例外である。これを見てペテロは言った。「この人々、われらの如く聖霊を受けたれば、誰か水を禁じて



シ モ ン



アルバヨの子ヤコブ



イスカリオテのユダ



ペテロ

其のバプテスマを受くることを拒み得んや」
(使徒行伝十章四七節)

ペテロが選ばれた時のキリストによって与えられた最初の任務は、この日まで彼にあった。それからその任務は広がって彼の上に於ても次の段階へと進みパウロその他の人へと降下して行つたのである。ここにキリストが彼らに委せた任務の重要な意義があるのである。「然れば汝ら往きて、もろもろの国人を弟子となし、父と子と聖霊との名によりてバプテスマを施し、わが汝らに命ぜし凡ての事を、守るべきを教えよ。視よ、我は世の終まで常に汝らと偕に在るなり。」(マタイ二八・一九—二〇)

イエス・キリストの福音の神性に対する証詞を先づユダヤ人にそれからサマリヤ人、異邦人またすべての人々にもたらすのが彼らの任務であつた。

使徒たちの二番目の務めは、イエス・キリストの復活の真実なることの証詞をもたらしことであつた。それは貴方や私にとっては非常に簡単なことである。何となれば我々のほとんどは赤ん坊の時からそれを受入れて居るからである。けれどもそれは今日世の中の人にとって簡単なことではない。数百万数千万

の人々がそれを拒否しているからである。

ユダが自殺してから十一人の者が集つた時にペテロは何と言つたであらうか。彼らは、或最大な試練失望と疑惑を経験したのである。「然れば主イエス我等のうちに往来し給いし間、即ちヨハネのバプテスマより始まり、我らを離れて挙げられ給ひし日に至るまで、常に我らと偕に在りし此の人々のうち一人、われと共に主の復活の証人となるべきなり」(使徒行伝一・二一—二二)

ユダの代りに貴方が選ぶべき者は我々に復活を証する者でなければならなかつた。それは理くつぬきに委託された実際の任務であつた。

その後、暫くしてペテロとヨハネは、神殿の門の処に坐つて居た跛者の前を通過した。彼は幼少の頃より毎日、そこに通つて宮に出入する人から恵みを乞うた。ペテロは答えた。「金銀は我になし、然れど我に有るものを汝に与う。ナザレのイエス・キリストの名によりて歩め」(使徒行伝三・六)そして聖書に告げてある処によると母の胎内にあつた時からすでに跛者であつたこの男は跳び上つて彼らと共に歩いて宮に入ったのであつたこのことはエルサレム中に知れ亘つたのであ

った。

この行為、また死よりの復活を説いたことにより、ペテロとヨハネは捕えられて牢に入れたのであった。翌日彼らは大祭司、司長老、学者らの前に連れ出され「如何なる能力いかなる名によりて此の事を行ひしぞ」と問われたのである。(使徒行伝四・七)これは人類史上に於ける最も壮観な一場面である。囚人であるペテロとヨハネが偏見を持った、いかめしい服装をした裁判官、その或者はキリストを十字架につけまたペテロとヨハネをも同様の運命に定めることをためらわぬ者たちに直面している絵、其処に生れつき跛者であったが今は医えた男が立っている。偏見に満ちたふんいきの中で使徒たちは、如何なる能力によつて、この奇蹟をもたらしたか告げるように命ぜられたのである。ペテロは雄々しく宣言したのである。

「汝ら一同及びイスラエルの民みな知れ、この人の健かになりて、汝らの前に立つは、ナザレのイエス・キリスト、即ち汝らが十字架に釘け、神が死人の中より甦えらせ給ひし者の名に頼ることを。このイエスは汝ら造家者に軽しめられし石にして、隅の首石となりたるなり。他の者によりては救を得ることな

し。天の下には我らの頼りて救わるべき他の名を、人に賜ひし事なければなり」彼らはペテロとヨハネとの臆することなきを見、その無学の凡人なるを知りたれば、之を怪しみ、且そのイエスと偕にありし事を認む。また医された人の之と共に立つを見るによりて更に言い消す辞なし。為に、命じて彼らを衆議所より退け、相共に議りて言う。「この人々を如何にすべきぞ。彼等によりし顕著しき徴の行われし事は、凡てエルサレムに住む者に知られ、我ら之を否むこと能はわねばなり。然れど慇々ひろく民の中に言い広まらぬように、彼らを脅かして今より後、かの名によりて誰にも語る事なからしめん」乃ち彼らを呼び、一切イエスの名によりて語り、また教えざらんことを命じたり。ペテロとヨハネと答えていう。「神に聴くよりも汝らに聴くは、神の御前に正しきか、汝ら之を審け。我らは見しこと聴きしことを語らざるを得ず」

(使徒行伝四・一〇―二〇)

私は復活が實際であることの、もう一つの証を貴方に示そう。それはパウロによつて与えられた。貴方は彼が十二使徒会に支持されたのを見出すことは出来ないであろうが、彼もまた使徒であつた。

我々は今、彼が十二使徒会員であつたかどうかを論ずるのではなく、彼が主イエス・キリストの使徒であり、その復活の証人であつたことに就て語らんとするのである。これは、彼がコリント人として知られている聖徒の一同に慎重に書き送つたところのものである。

「わが第一に汝らに伝えしは、我が受けし所にしてキリスト聖書に広じて我らの罪の為に死に、また葬られ、聖書に広じて三日めに甦えり、ケパに現れ、後に十二弟子に現れ給ひし事なり。次に五百人以上の兄弟に同時にあらわれ給えり。その中には既に眠りたる者もあれど、多くは今なお世にあり。次にヤコブに現れ、次にすべての使徒に現れ最終には月足らぬ者のごとき我にも現れ給えり。我は神の教会を迫害したれば、使徒と称えらるゝに足らぬ者にて使徒のうち最小き者なり。」

(コリント前書十五・三―九)

使徒たちが委ねられていた義務は、主イエス・キリストの特別の証人となつて、その教えの人類に及ぼす効果を証することであつた。

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹 (二)

ジョセフ・フィールディング・スミス著

序論 古代および中世に於ける福音(つづき)

七、「時の絶頂」の神権時代。救い主がユダヤ人の間で導きと恵みを施したもうた「時の絶頂」の神権時代に、救い主は福音を大神権と共に回復したもうた。救い主は天へ昇るに先だち教会の組織を完全にするために十二使徒を召して按手聖任し彼らに権能を授けたもうた。そして十二使徒が全世界に神の救いのおとずれを伝える委任をなしたもうた。救い主の降臨以前にこの世から取り去られていたものを回復するため、救い主は一層高度の律法の代りにつけ加えられていた肉体に関わる律法を不用なものとして棄てたもうたが、これはその律法が創られた目的をすでに成就していたからである。

八、十二使徒の委任。福音のおとずれを全世界にもたらし、これをあらゆる人々に宣べ伝えるようにイエスが与

えたもうた委任を受けた使徒たちは活潑な伝道をペンテコステの日に始めた。そして使徒たちは権能を以て宣べ伝え多くの人々を心から信じさせた。この福音伝道の働きが大きくなったために、またこの働きをにつづけるために他の働きの人の助けが必要になったので人々が神に召されて教会内の特殊な職に就くように按手聖任された。

また主御自身はさきに十二使徒のほか「七十人」を召して按手聖任したまい、かれらは全ユダヤに真理のおとずれをもって遣わされた。これらの者がその宣教師の旅から帰ってきたときにそれは大きな喜びであった、悪鬼らさえも彼らに従ったからである。主がこのほか何の役員を按手聖任しまた特に任命したもうたか聖典はこれを明らかにしていない。さりながら、十二使徒が教会に関するすべてのことを整理整頓する権能を授けられていたことは言うまでもない。われわれは十二使徒の指導と福音伝道の下に当時

支部教会がつくられて導きと教えを施す業に必要であったから大祭司、祝福師、長老、監督、執事、祭司、教師などが教会の働きをするために召されたことを教えられる。十二使徒の時代に教会の組織はこのように立派につくられた。またこのような初期の時代には、救い主が親しく導きと恵みを施したもうた伝道中と同じように教会は神の賜と主の「みたま」に恵まれていた。当時教会の中には多くの予言者があって聖霊の賜によって多くの驚ろくべき予言をした。

九、教会内の欠くべからざる職。 教会の中にあるこれ

らの職はみな教会が進歩発達するために欠くべからざるものであるから、これらの職を不用なものとして棄てるときには必ず咎めを受ける。パウロは、主が「或る人を使徒とし、或る人を監督、教師として与えたまえり。これ聖徒を全うして導きと教えを施さしめ、キリストの体を建て」んためである（エペソ書四〇十一・十二）と言った。これらの職は単に教会が成長する期間または働きを始めるための短い間教会にあるだけで、その後別の種類の他の役員に置きかえられるはずのものではなかった。人々がこれらの職に按手聖任されたのは「キリストの体を建て、われらをしてみな信仰と神の子を知る知識とに一致せしめ、全き人すなわちキリストの満ち足れるほどに成長」（エペソ書四〇十二・十三）させんためであった。そこで、教会の間に教

義、知識、または愛などが充分にないかぎり、明らかにこれらの会員は「キリストの満ち足れるほどの成長」にはまだ程遠いのである。これらの諸々の役員はみな必要であってこれを取り去ることは正しくない。主は決してそのようなことをする御旨がないからである。エペソ人への手紙を書いたパウロは、さらにすべてこれらの役員を人体の各部分に比較して次のように言っている「彼を本とし全身はすべての節々の助けにて整い、かつつらなり、肢体各々の量りに応じて働くによりその体成長し自ら愛によりて建てらるるなり」（エペソ書四〇十六）。また同じ使徒パウロは「みたま」の賜を肉体にたとえて、各々の賜は教会にとってなくてはならぬものである。これはちょうど肉体の各部分がそれぞれなくてはならぬものであって、一部分が他の部分に向って「われ汝を要せず」（コリント前書十二〇二十一）と言うことはできない、それはすべての人「これを以て益を得んため」に必要であるからである、というのと同じことであると言っている。

第二章

背教

一、教会の主体破壊される。 教会の役員たちが神権を授けられ、またすべてが「全き人、すなわちキリストの満ち足れるほどに成長」（エペソ書四〇十三）するまでなく

ならないはずであった「みたま」の働きを示したにもかかわらず、おそろしい大変化が起って完全な教会の主体が破壊されてしまった。そして完全な教会の代りに異様な組織が起ってとうとう全世界をその領土とし、真実な愛でなくおそろしい流血と殺戮と鉄の手とを以て人類の運命を支配するに至った。

二、背教が予言された。こうした勢力が起ることは、昔の多くの予言者や主の使徒たちがすでに予言していた。救い主でさえも、その弟子たちに時代のしるしを教える際に、将来これが起るということを暗に示したもうた。イザヤはキリストの降誕七百年前に予言して律法が破られるために地はそこに住む民のために汚され、数々の儀式は変り「新しく且つ永遠の誓約」が破られる時代が来ると言った。しかし、これは末日の時代に起るのであって、イスラエル人がモーセの律法に従っている時代に起るのではないことが明らかである。モーセの律法は「新しく且つ永遠の誓約」ではなかったからである。この予言は、民の罪惡と腐敗のために汚された地球が火によって清められ僅かの人々だけがのこる日に完全に成就するはずであった（イザヤ廿四〇一―六）。

三、イザヤとアモスの予言。この出来事についてイザヤは「主は熟睡の靈をなんじらの上に注ぎて汝らの目を閉じたまえり。すなわち主は予言者、汝らの支配者、聖見者

らを被いかくしたまえり」（イザヤ二十九〇十）と言っている。またアモスもこれより僅か前に予言して、主が飢饉を地につかわしたもう時が来る。それは「パンに乏しきにあらず水に渴くにあらず主の言を聞くことの飢饉なり」（アモス八〇十一）と言っている。

四、ダニエルの見た示現。ダニエルは示現の中で主が「時の絶頂」に立てたもうた教会が倒れるのを見た（ダニエル書第七章）。ネブカデネザル王が夢の中で見た四つの王国を表わす四つの獣の示現の中で、ダニエルはローマ帝国の後をついだ十の角の中から「その同類よりも強き」一つの角、または統べ治める権が出て来るのを見た。この一つの角には目と、いと高き者に敵して非常に大きなことを言う口とがあつて、ほかの三つの王国はこの角のために征服された。そしてこの角は「聖徒と戦いてこれに勝ち」絶えず戦つてその力を振り「いと高き者の聖徒を悩まし」「時と律法とを変えんことを」望んだ。神を汚すこの権力は全世界を支配したがついに「最も老いたる者」が来つて「国と権」とは「いと高き者の聖徒たる民に歸し」「いと高き者の国は永遠の国」となったのである。

五、背教は使徒の時代に始まった。使徒たちが導きと教えを施した時代が終らないうちに真の信仰からの背教がすでに始まった。パウロは彼に会いに来ていた長老たちとミレトに於て最後の別れを告げるに当り、神の教会を牧す

伝道本部だより

解任

カール・ポップ長老は一月八日、ガース・リッシイマン長老は二十一日ジョン・アダムス長老は二十六日に解任された。

任命

テロル・バーガー長老 北海道地方部長
 ケネス・オルトン長老 東中央地方部長
 ルーロン・ボーター長老 京城中央支部長
 リロイ・フラン長老 京城東門支部長
 ジェリー・ステイル長老 福岡支部長
 ジイン・ヤマガタ長老 岡山支部長
 マーク・オドロイ長老 金沢支部長
 デイー・シイキャンク長老 群馬支部長
 ベルドン・グデイ長老 室蘭支部長

転任

ジエイリー・ウイルコックス 長老 札幌支部長
 トーマス・マース長老 巡廻宣教師
 ロバート・ヴァンダイク長老 巡廻宣教師
 ジイムス・ブラッドショー長老 京城西へ
 デビッド・ワードル長老 京城中へ
 ドナルド・ヒル長老 京城東門へ
 ホール・ホールブロック長老 岡町へ
 ランドルフ・スワ長老 東京中央へ
 ノーマン・トング長老 広島へ
 ワーレス・クレীগアン長老 旭川へ
 ゲリー・ホートン長老 松本へ
 レイ・ガイゲル長老 東京北へ
 アラン・バーカーシー長老 札幌へ
 ラリー・デビス長老 東京西へ

ウオーレン・マックレーラン 長老 東京南へ

バプテスマ

高橋保城 呉元順治 武田美江子 浅沼ミツ子 養父正明 竹崎庄市 人見りえ 坂口笙子 矢島ツヤ 山中久子 山中新門 山久保宏子 栗林範子 吉田道乃 若松道範 樋口国広 大川研介 土岐浩子 堀井万亀子 磯石和也 長谷川和子 南城綺子 多田美智子 有田千代香 北島国守 我如古盛光

普天間	横浜	東京中央	東京南	札幌	三ノ宮	岡山	岡町	西ノ宮	名古屋	松本	甲府	金沢	〃	〃	〃	群馬	福岡	〃	〃	阿倍野	島袋登子	大峯君枝	金城光枝	如古とし子	
安齊洋治	浅沼勝輔	近藤秀雄	田中秀雄	〇祭司 木野隆弘	溝口高男	川口茂司	朝田一肇	和松ノリオ	〇教師 若松	小宮山恒雄	鮫島邦彦	熊野照次郎	山本茂郎	川口喜丈人	引寺辰人	〇執事	与那覇秀雄	山里富美子	山里芳子	照喜名泰子	松田保子	島袋登子	大峯君枝	金城光枝	如古とし子
東京中	岡町	旭川	阿倍野	札幌	三ノ宮	〃	岡町	松本	旭川	東京中	札幌	岡山	〃	〃	〃	〃	群馬	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

支部所在地

阿倍野	大阪市阿倍野阪南町中一ノ三八
旭川	旭川市八条五丁目
福岡	福岡市菜院大通二ノ五五
群馬	高崎市並榎町二七五
広島	広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢	金沢市成瀬町一ノ四 野田方
甲府	甲府市富士見町一
松本	松本市沢村一六〇四
室蘭	室蘭市幸町八九
名古屋	名古屋市中昭和区北山町三ノ四一
新潟	新潟市中央大畑町五五七 金井方
西ノ宮	兵庫県西ノ宮市田代町一一一
岡町	大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山	岡山市国富一ノ一九 丹下方
小樽	小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町四ノ三五
札幌	札幌市北二条西二四丁目
仙台	仙台市光禅寺通り二八
東京中央	東京都渋谷区八幡通一ノ三四
東京北	東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八
東京南	東京都大田区南千束町二四九
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺三六八
山形	山形市諏訪町三九七
柳井	山口県柳井市今市三九一
横浜	横浜市港北区篠原町二九
普天間	沖縄宜野湾村野嵩区三二八
那覇	沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

昨年は五年続きの豊作とか岩戸景気とか言いはやされ、今年はまた黄金の年一九六〇年とか言われていますが、私たちは旧約聖書の創世記第四十一章二十五節から三十八節までを今一度読み返したいと思います。私たちの為すべき心がまえはその中にはつきりと証されているではありませんか。(佐藤竜)

先月号より聖徒の道は伝道部長の発言により昨年の倍の発行部数を印刷しました。各支部の宣教師と会員の協力によりこれを一般に販売するわけですが、単なる雑誌販売ではなく、教会の一つの手引となるべき印刷物の販売というわけでこれは伝道の一部となります。従って宣教師は伝道の一つの働きとなり、モルモン経の販売と同じようにあつかわれます。

現在の一部三十円は印刷費の実費以下で昨年は三十数万円の赤字(韓国発行の雑誌を含めて)となりました。しかしこれが宣教師と会員の販売の熱意いかんによってあるいは今年は黒字になるかもしれません。今月号は伝道部長の許しを得て当初は赤字でも表紙は四色に致しました。頁数をもつと増すことは今少し先になつてから行うことに致します。会員一人三冊ないし五冊を常になつたえ隣人に福音を伝える時にその話のきっかけとしてこれを使って下さい。

サタンは己れの主張を宣伝するのに実に熱心であります。私たちが福音を伝えるのにサタンよりその熱意において劣る理由はありません。「御国のこの福音は、もろもろの国人に証をなさんため全世界に宣伝へられん、而して後終りは至るべし」(マタイ伝二十四章十四節)

(大塚)



2月号表紙——「山上の変貌」

カール・ハインリッヒ・ブロッホ画(1834~1890) 原画はデンマーク・ヒレロッド・フレバリックスボルグ城に保存されている。

月刊「聖徒の道」第四卷第二号

一九六〇年二月一日発行

実価 一ケ年 三百円

一部 三十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

内 案 書 図

教義と聖約	合本	一一〇〇円
高価なる真珠	合本	一一〇〇円
モルモン経		
教義と聖約	合本	三〇〇円
高価なる真珠		
モルモン経	(新訳)	二〇〇円
信仰箇条の研究		三三〇円
モルモンとは		一〇〇円
完成への道		二〇〇円
初等協会教科書		一五〇円
総合聖句の手引		一五〇円
日本系図探究要覧		一〇〇円
古代アメリカの生活		一〇〇円
旧約聖書物語		一五〇円
家督権の祝福		一〇〇円
扶助協会手引		五〇円

日曜学校用

宗教と生活 II	一五〇円
よきおとづれ	一〇〇円
聖書物語語	一五〇円
福音の実践	一五〇円
聖典中の指導者	一五〇円

M I A 用

役員と指導書の手引	一〇〇円
我らは奉仕する	一〇〇円
Mメン・グリーンナーの手引	一〇〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集	七五円
演説が上手になる法	一五〇円
社交ダンス必携	一六〇円
新しいフオークダンス	五〇円

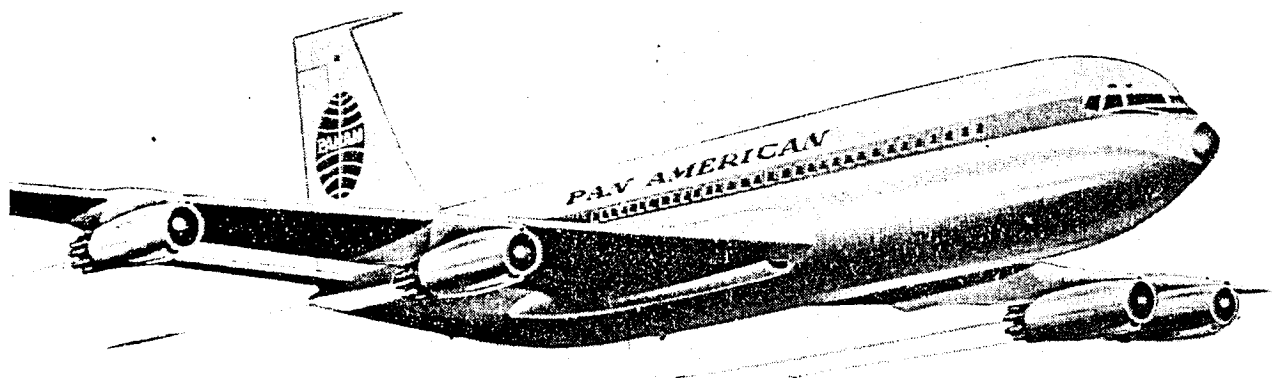
讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌	三〇〇円
末日聖徒讃美歌抜萃	三〇円
子等は歌う	一〇〇円
レクリエーション歌集	四〇〇円

航空界のリーダー パンアメリカンが誇る！

JETS

全世界を結ぶ
ジェット クリッパーの航空網——



パン アメリカンのジェット クリッパー* は太平洋と大西洋を結び、アジアとヨーロッパの両大陸を横断、その上、北極もとんでいます。南米に於ても、パンアメリカンのジェットクリッパーはニューヨーク、ブエノスアイレス間を時速1000キロで往復しています。



詳細は最寄りの航空代理店又は弊社営業所で承ります

東京・千代田区丸の内三菱商事ビル 電話(211)2441

大阪・北区中之島大阪グランドホテル 電話(26)6048-9

世界で
最も経験ある
航空会社

*合衆国特許局登録商標